

災

五年 筆順 7
オン サイ
ワザワイ

成り立ち



曲がりくねった川の形を表した「川」と、「火」とを組み合わせて作った字です。

昔、人がこうむる「わざわい」の一番大きなものは、「川のはらん」であり、次が「火事」でした。それで「火」と「火」とで、「わざわい」という意味を表しました。今では、「水火のわざわい」だけでなく、広く、いろいろな「わざわい」の意味に使われています。

「古い字形は「災」で、川の曲がった部分が決壊して、氾濫することを表したもので、「水害」を表した字である。「わざわい」を表す。災は「災」で、「火事によるわざわい」を表した字である。」

使い方

▽「天災は避けることができて、人が不注意で引き起こした災いは避けることができない」と言われます。それに、天災は人の力の及ばない所ですから、わたしたちは人災を起こさないように気をつけたいと思います。

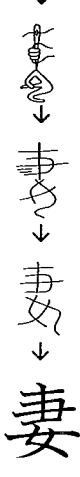
熟語例

- ▽天災(天が下す災い、ということ、地震や台風など、自然現象による災害をいいます。)
- ▽災害(害も「災」の意味がある。また、「災いによる損害」という意味にも使われます。)
- ▽人災(人の不注意によって起こる災害)
- ▽火災(火による災害。ふつうは、ただ「火事」と言っています。)
- ▽震災(地震による災害。例関東大震災は大正十二年九月一日に起こりました。それで、この日が防災の日とされているのです。)
- ▽防災(災害を防ぐこと。人災を起こさない注意をすると共に、天災に対する用意をして、天災が起こっても災害を小さくする努力をすること。)

妻

五年 筆順 8
オン サイ
ツマ

成り立ち



「針」の本字で、針の意味の「十」と、手の形を表した「コ」と、「女」とを組み合わせて作った字です。

「針を手にした女」を表した字で、「針仕事」をする人である「家庭の主婦(つま)」を表したものです。昔は、「針仕事」が主婦の代表的な仕事の一つでした。

「古い字は、針でなくて、箒を手にした形の字である。今では、箒を使うことが少なくなっただけで、それに、今の字形では箒にみえないので、「針」と見た方がわかりやすいであろう。「十(年36)」は、針の本字であった。」

使い方

- ▽「海国兵談」を書いた林子平は、「親も無し、妻無し子無し、版木無し、金も無けれど死にたくも無し」という和歌を作って、六無斎と自称しました。
- ▽昔は、家を持ち、妻子を養う、ということは大変な仕事だったそう、結婚できない人も多くいたそうです。
- ▽妻子(妻や子ども。妻と子)
- ▽妻女(妻だけではことが短いので、女ということばをつけたものです。単に「妻」ということです。また、「妻と女の子」の意味にも使います。)
- ▽妻君(妻女の新しい言い方。主として、他人の妻を言う時に使いますが、自分の妻にも使います。)
- ▽妻帯(妻を持つこと。結婚すること。)
- ▽愚妻(「愚かな妻」という意味のことばで、自分の妻を言う時に使います。へり下った言い方です。)
- ▽良妻(夫にとって「良い妻」であるという意味のことばです。例良妻賢母)
- ▽後妻(再婚の妻。妻に死なれるか、別れるかして、再婚した「後添いの妻」)

熟語例

- ▽「海国兵談」を書いた林子平は、「親も無し、妻無し子無し、版木無し、金も無けれど死にたくも無し」という和歌を作って、六無斎と自称しました。
- ▽昔は、家を持ち、妻子を養う、ということは大変な仕事だったそう、結婚できない人も多くいたそうです。
- ▽妻子(妻や子ども。妻と子)
- ▽妻女(妻だけではことが短いので、女ということばをつけたものです。単に「妻」ということです。また、「妻と女の子」の意味にも使います。)
- ▽妻君(妻女の新しい言い方。主として、他人の妻を言う時に使いますが、自分の妻にも使います。)
- ▽妻帯(妻を持つこと。結婚すること。)
- ▽愚妻(「愚かな妻」という意味のことばで、自分の妻を言う時に使います。へり下った言い方です。)
- ▽良妻(夫にとって「良い妻」であるという意味のことばです。例良妻賢母)
- ▽後妻(再婚の妻。妻に死なれるか、別れるかして、再婚した「後添いの妻」)

五年